



高田小だより

R4. 5. 10
文責：校長

R4 学校教育目標

「やればできる!」を応援し、主体性を持たせ自信と夢を育む学校

国内で新型コロナウイルスの感染が確認され、三年が経ちました。連休前は全国的に感染者の数は減少傾向にあったようですが、連休が明け、少し状況が変わって来たようです。八代市内においても、感染者の累計が七千人に迫る勢いで、まだまだ予断を許さない状況です。本校では、来月2日から予定していた6年生の修学旅行も11月下旬に延期を決定し、今後の教育活動にも影を落としています。

さて、本校では5月13日(金)に予定していた授業参観はご家庭からお一人の参観に制限させていただき、PTA総会は紙面開催に決定しました。今年度も年度始めのご挨拶の機会を逸してしまいましたので、この紙面を利用してご挨拶させていただきます。

今年度の本校の教育目標は「夢を持ち、主体的に学び、考え行動する高田っ子の育成」です。昨年の目標から、『主体的に学ぶ』と『考え行動する』という言葉を新たに入れていきます。

昨年一年間、子供たちを様々な教育活動を通して見てきましたが、そこから見えてきた課題を整理して、これからの時代を生き抜く子供たちに必

子供の「やればできる!」を応援し、主体性を持たせ自信と夢を育む

要とされる力を身に付けさせたいという願いを込めて設定しています。

この目標を達成するため、職員は校内研修で授業力向上に焦点を当てた研修を重ねると同時に、「自ら考え行動する子供」の育成に努めていきます。高田小の子供たちは、授業や学校行事、学級での係の仕事、給食や掃除当番、委員会活動等やるべきことに取り組んでいます。しかし、時には「やらされている」感が見え隠れしたり、興味や心が長続きしなかったりすることもありました。そのような姿に、教師である私たちは、「一方的に教え込むことに重点を置いていな

いか」「子どもたちに明確な目標をもたせていたか」「子どもたちが、自ら気づき、考え、行動させる機会を十分に設けていたか」など、考えさせられることがありました。先生の指示を待って行動する子供より、失敗してもいいから自分の意思を持って行動する子供に職員一丸となって育てていきたいと思えます。そこで、昨年同様に『3つの自』を意識した教育活動を進めます。

■(自主性)

物事を真剣に考え、積極的に行動できる力を、様々な教育活動の中で育てていきます。

■(自立心)

発達段階に応じて、自分のことは、自分できちんとやる力を伸ばします。また、自分で計画を立て、実行できる力も応援し自立心を育てます。

■(自信)

先の2点を、失敗や成功を繰り返しながら、あきらめずに粘り強く継続させ、「できた!」という喜びを実感させながら、子どもたちに自信を持たせていきたいと思えます。

この自主性や自立心を育て、様々な体験を繰り返す中で「やればできる」という自信が身に付き、夢を持つ心が育まれると信じています。

ご家庭でも、自主性を持たせ、自立につながる家庭教育を進めていただけたら幸いです。

お見知り遠足

4月28日(木)にお見知り遠足に行きました。一昨年はコロナの影響で中止になり、昨年は雨で校内遠足となったので実に3年ぶりの遠足となりました。

お見知り遠足と言え、6年生が1年生の手を引いて歩き、一緒にお弁当を食べたり、遊んだりしてお世話をしながら一日を過ごすのが定番の行事でしたが、コロナ禍とあって、手を引いて歩くことはできませんでした。しかし、ペアになった1年生と距離をとりながらも優しく、積極的に交流する6年生の姿に、6年生の自覚と喜びを感じまし



河川敷公園でお弁当を食べる子供たち

時を大切に

本校の校訓は「人物時を大切に」です。この校訓はどの学校にも無いすばらしい校訓だと思っております。今年度はこの校訓を基に、教育活動を進めていこうと考えています。昨年一年間子供たちの様子を見ていて気になることがありました。

それは、始業時刻に間に合わない子供が多いいことです(一日平均7人)。体調が悪かったり、年に一度の朝寝坊等で珍しく間に合わなかったりするの仕方がありませんが、それが頻発するとなると、低学年の子供たちは、お家の方が一緒に前日の準備の確認であったり、朝の身支度等の支援をしたりして、時間に間に合おうようにしてくださっている様子はよく伺えます。しかし、自分のことは自分でしなくてはならない学年になっても、朝が苦手という理由等で、学校に遅れるとわかっているにもかかわらず、起床時刻が過ぎていても寝ていたり、気分が乗らず支度に時間をかけたりするなど様々な理由で遅れてしまっているようです。

これは、時間に間に合うように車に乗せてきて欲しいと言っているのではなく、自分の時間を管理する力を身に付けて、将来を見据えて、「時間」という後戻しができない貴重な資源を、有効に使う力を身に付けさせ、自立につなげたいと考えているからです。子供の自立に向けた指導を、家庭と連携を図りながら進めていきたいと願っています。